あとがき

『アジア・キリスト教・多元性』第２号をお届けいたします。この雑誌は、研究会「日本・アジアのキリスト教と宗教的多元性」の一年の活動の集大成というべきものですが、ご覧いただいてわかるように、収録論文はいずれも研究会での討論を経たものであり、それぞれ水準の高い力作であると思います。本研究会はこの一年の間に何人かの新しいメンバーを加え、研究内容に関しても厚みを増してきていますが、今後も積極的な研究活動の場でありたいと考えております。

2003 年度の毎月の定例研究会については、前頁に紹介したとおりですが、そのほかに特筆すべきことは、本研究会メンバーも加わって行われた、ＣＯＥ研究会「多元的世界における寛容性の研究」（京都大学 21 世紀ＣＯＥプログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」）の国際シンポジウム「宗教間対話と平和思想の構築」（2003 年 10 月 25 日、京都大学）です。その際にパネリストとして発表された金文吉、許油両氏の発表内容は、本雑誌に、論文化して掲載いたしましたので、ぜひご覧ください。なお、2004 年度は、第二回目の国際シンポジウムを、ＣＯＥ研究会と釜山外国語大学との共催という形で、釜山にて秋に開催することを予定しております。

また、2004 年度は、この国際シンポジウムの他に、第 19 回国際宗教学宗教史会議世界大会（東京大会）において、本研究会メンバーを中心としたパネル ── 「東アジアの宗教と社会正義－日韓の無教会キリスト教を中心に－」 ── が企画されており、新年度の研究会は、これら二つの共同研究を軸に進められることになるでしょう。これらシンポジウムとパネルについては、次号の『アジア・キリスト教・多元性』で詳しい内容をご報告したいと思いますので、ぜひご期待ください。

本研究会は、個々のメンバーが個人研究を発表し合し討論する場であると共に、アジアにおけるキリスト教をめぐる諸問題に対する共同研究の場としても存在しており、他の諸研究会とも積極的に関わり合いながら活発な活動を行いたいと考えています。アジアと日本のキリスト教、宗教的多元性といったテーマに関心のある方は、一度本研究会のホームページを参照の上、ぜひわたくしたちの研究会にご参加ください。

最後に、本雑誌の発行にご協力いただいた方々にこの場を借りて、心より感謝を申し上げます。とくに、研究会メンバーでもある許油先生からは、雑誌発行のために多額のご寄付をいただいたことについて謝意を表すとともに、ご報告いたします。今後も、本研究会のために、各方面からのご協力をいただければ幸いです。

２００４年３月

研究会代表
芦名　定道